



「だいじょうぶ」ってだいじょうぶ？

これから何かに挑戦しようとしている子に「大丈夫！ あなたなら
できる」と励ましの言葉を、「100点を取るなんて偉いね」と賞賛の
言葉をかけることはないでしょうか。大人が子供に対して普段使っ
ている言葉です。しかし、こうした言葉がけには大きな落とし穴があり
ます。



1 良かれと思ってかけた言葉の落とし穴

この言葉がけをした後、子供が失敗してしまったらどうなるで
しょうか。ある程度成長している子なら、「練習が足りなかった」「努
力が足りなかった」「次はがんばろう」と反省したり、次へのステップを
図ろうとするでしょう。しかし、子供によっては「大丈夫と言われたのに…」
「期待に応えられなかった」とネガティブにとらえてしまう場合もあ
ります。また、「100点取るなんて偉いね」に対して、100点が取
れなかった場合、「100点以外はダメ」「100点取れなかった自分
はダメ人間だ」と負のとらえをしてしまう場合もあります。



2 「だいじょうぶ」だけでは「大丈夫でない」

なぜ「だいじょうぶ」なのかを具体的に説明することが必要です。

- ・毎日3時間練習してきたのだから「大丈夫」
- ・ノート3冊分も使って勉強したのだから「大丈夫」

など具体的な努力を認めてあげることで、自信をもって立ち向かうこと
ができると思います。



3 「失敗」したときこそ成長のチャンス！

A子は、校内音楽会の伴奏者オーディションを受けるため、練習に励んでいました。し
かし、直前になって病気となり、オーディションには参加することができず、伴奏者は他の
子に決まってしまいました。A子は落ち込んで大泣きしてしまいました。

この時、A子のお母さんは「これはチャンス」と考えました。A
子は「健康状態を維持できなければ、大切なチャンスを失うことが
ある」と身をもって知ることができたからです。お母さんはA子の
気持ちを「共感」「傾聴」の態度でじっくりと聞いてあげました。
これが子供のストレスを和らげます。数日後、A子は「音楽会は来
年もあるから、今度は万全な体調でオーディションを受ける」と言
いました。

子供と一緒に落ち込むのではなく、「共感」「傾聴」しながら冷静
に対応できる、A子のお母さんのような「一枚上手」の「知恵者」
としてのサポートが必要なのだと思います。

